

全体会午後の部 I

司会者 それでは定刻がきたので着席してください。ただ今より、全体会午後の部 I を行いたいと思います。午後の部 I の司会を担当させていただきます藍住中学校 2 年の s, 藍住中学校 2 年の t です。よろしくお願いします。午後の部は、前半の I と後半の II の 2 部構成になっています。最初に意見発表を 4 本していただき、その内容を通して、みんなで人権について語り合い、みんなで本当の笑顔輝かせていきたいと思いますので、みなさん、どうぞ協力、よろしくお願いします。

まず、吉成さんから話がありますので聞いて下さい。

吉成 すいません。予定にない所で、私から少し話をさせて頂くことになりました。何の話かという、以前私が持っているクラスの中にこういう子がいました。もしかしたら同じような経験のある子がこの会場にもいるかもしれません。どういうことがあったかという、女の子なんですけども、その女の子に投げかけられた言葉じゃないんですが、その女の子がいる近くで男子が会話を、やりとりをしているわけなんです。やりとりをしているときに、ある男の子が、一方の男の子に向けて「死ぬ！」って言うんです。それはある男の子から、もう一方の男の子に投げかけられた言葉であって、その近くの女の子に言った言葉ではないんですが、その女の子は近くでその言葉を聞いて、すごく嫌な思いになったんです。そもそも教室にそういう言葉があること自体、私はどうかなと思うし、そのことをずっと一緒に考え合ってきたんですけども、そんなのすぐなくなるものじゃなくて、すごく時間がかかることだったんですけども、けど、現実はどうだったんです。その女の子はすごく嫌な思いをずっと感じ続けてき

ました。どうでしょうか、みなさんの身近な所では、そんな言葉が日常的に投げかけられたり、使われたりしてないでしょうか？例えば自分をよく知る仲のよい友達とのやりとりであったとしても、その 2 人、3 人の中でのやりとりだとしても、全然違う第三者、全然違う子が近い所で聞いていたときに、その子の心臓が「ズキッ！！」とするようなこと。自分が言われたんじゃないことは分かっていたとしても、その言葉を聞くだけで「ズキッ！！」としてしまう、そういう経験ないでしょうか。私の周りにはそういう子が居たわけです。



午前中のパネリストで佐賀さんが A ちゃんの話をしてくれました。A ちゃんが自分に言われたことじゃないかもしれないんだけど、すごく傷ついて嫌な思いをした部分の話をしてくれたと思います。覚えてますかね。そういうことってあると思うんです。ここで集まっている皆さんというのは、県内外を問わず、いろんな所のいろんな子が学年を問わず集まっています。もちろん、今日初めて顔を合わせて友達なった子もたくさんいると思います。だから、今日知らない子がほとんどだと思います。知らないんだけど、例えば午前中、いろんな人が手を挙げて発表してくれたように、午後もたぶんいろんな人が手を挙げて発表してくれると思います。その時に、やっぱり勇気づける温かい眼差しで見たいなと思うし、目で応援して欲しいなと思うんです。そういう関係性でこの集会はで

きて続いてきたわけですので、今日もそういう会が続けられたらなと思います。私とあなたは違います。あなたとあなたも違います。それは当たり前です。人間としては同じであったとしても、それぞれ違います。違うからといって「何、あの子…」みたいなね「うわー、きっしょー」とかね、「きもー」とか「死ね！」とかね、その人の存在すら否定してしまうような、そんな言葉を出してしまうような自分じゃなくって、その人の話を聞いて、どう応援しようと思えるようなそんな会でありたいなと思います。そんな眼差しを午後からしっかり舞台の発表者に、もしくはフロアのそれぞれの発表者に向けられる自分であるように努力してみてください。よろしくお願ひします。

司会者 前半1本目の意見発表です。藍住中学校2年松村麻里さん、「私の名前」です。よろしくお願ひします。

「私の名前」

藍住中学校2年 松村麻里

みなさんは、自分の名前が好きですか？小学生の頃、私は自分の名前があまり好きではありませんでした。なぜかという、今の名前の漢字と、両親が決めた漢字が違っていることを知ったからです。

両親が決めていた漢字は、真実の「真」と理科の「理」で「真理」でした。しかし、その漢字を見た祖母が「その漢字はだめだ」と言ったそうです。その理由は「姉がかわいそう。」というものでした。

実は、私の母も父も、真実の「真」という字が名前についています。そこに私の名前を両親が考えてくれた方の「真理」にすると、4人家族の中で姉だけが真実の「真」の字がつかなくなってしまう。だから、祖母は、私の名前の漢字に反対したのです。

そこで、私の名前は、「布」の種類「麻」

と「ふる里」の「里」で「麻里」になりました。でも、今の私の名前の「麻里」には、由来がありません。だから、私は自分の名前があまり好きになれませんでした。

私の姉の名前は、多くの恵みと書いて「多恵」と言います。「多恵」という名前には、「多くの恵みを与えられるような子になってほしい」という両親の願いが込められています。

でも、私の名前にはそういう由来がないのです。小学生のとき、自分の名前の由来を調べるという宿題が出ました。母に私の名前の由来を尋ねると、祖母とのやり取りのことを話してくれました。いつも笑っている母が口ごもってしまい、少し悲しそうな顔をしていたので、私も悲しくなりました。同時に、祖母に対しても嫌悪感を抱いてしまいました。

そんな私に父が言いました。「おばあちゃんは、決して麻里ちゃんに嫌われようと思って、そんなことをしたわけじゃないよ。おばあちゃんも、お父さんやお母さんと同じ気持ちで、家族みんなの幸せを願って、麻里ちゃんの名前を一生懸命考えてくれたんだよ。」と話してくれました。この時、父は、いつもよりずっと優しいまなざしで、私のことをみつめていました。



父の話聞いて、私はどうして気がつかなかったのだろうと、心から思いました。祖母は、私のことも姉のことも、両方のことを考えて言ってくれたことなのに、勝手に私から嫌われて、悲しかったのだろうなと思いました。

このことで私が学んだことは、「何か行動

したり、発言したりする前に、一度立ち止まって、別の視点から考えてみる。」ということです。当時の私は、自分の視点からしか見ていなくて、祖母の気持ちを考えようとしていませんでした。だから、あからさまに祖母のことを避けたり、無視したり、冷たい態度をとっていました。

私にとって、かけがえのない祖母なのに、私はひどいことをしてしまいました。祖母の心を傷つけてしまいました。祖母は、私に冷たくされ、とてもつらく、悲しかったと思います。でも、こんな私に、祖母はいつも温かい眼で私を見守り、とても大切にしてくれました。姉と同じように接してくれました。私の心ない言葉にもおおらかな心で受けとめ、言葉を返してくれました。そんなことを思うと、私は自分自身がとても恥ずかしくなります。祖母はそんな私のことを包み込むように、私を大切にしてくれます。私はその祖母の偉大さや優しさを感じると共に、心から感謝しています。

私は、この経験から、自分の名前を好きになれました。そして、祖母ともすごく仲良くなれました。そして何よりも、「何か行動したり、発言したりする前に、一度立ち止まって、別の視点から考えてみる。」ということを学んだことで、友達や家族とのケンカやトラブルが少なくなりました。また、他の人の気持ちになって考えたり、自分が何をすべきかを自然に考えたり、自分の周りの人たちに迷惑をかけない行動を心がけるようになりました。

私は、今、『麻』のように丈夫な心と体で、『ふる里』を大事にできる」ような優しい人になりたいと思っています。両親と祖母が一生懸命考えてくれた、私への最初のプレゼントである「麻里」という名前に誇りをもって、これからも生きていきたいです。そして、家族や私のまわりにいる人たちを大切にしている人になります。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半2本目の意見発表です。上板中学校3年三浦唯津稀さん「幸せになるために」です。よろしくお願いします。

「幸せになるために」

上板中学校3年 三浦唯津稀

「幸せ」とは何ですか。自分のしたいことができる。毎日が楽しい。人それぞれに感じている「幸せ」は違うと思います。では、皆が「幸せ」を感じ「幸せ」に生きるためにはどうすればよいのでしょうか。誰も悲しまず笑顔でいるためにはどうすればよいのでしょうか。

この世の中はいろんな差別があることを人権の授業の中で学びました。男女の性差による差別や肌の色で差別する人種差別、身体や知的に障がいがある人への差別、ハンセン病回復者に対する差別や高齢者に対する差別など…。その中でも特に部落差別に対して、今までの私は、憤りというよりも、不思議さの方がまさっていました。「生まれた場所によって人の良い悪いがあるのだろうか」「人の生まれる場所や両親を、人は選べるのだろうか」このことにハッキリとした自分の答えを見つけることができませんでした。



そんな不思議さや疑問を持ったまま、3年生になり、人権学習の時間で結婚差別の授業を受けました。全体学習の中で、結婚相手の

何を一番に考えるかと聞かれたとき、自分の中では、相手の人柄や性格を一番に考えると結論が出ていました。私は、一緒に生活をしていく中で、楽しく幸せな毎日が過ごせる相手を選びたいと思っています。同級生も私と同じように、考えていることが少しうれしくなりました。

全体学習が進む中で私は、「幸せな結婚って何だろう。」と考えるようになりました。しかし、この考えはすぐに不安へと変わりました。「もし、私の両親が結婚に反対したら…私は両親を説得できるのだろうか?」「差別はされる人も、する人も幸せになれないと思うのに…。部落とか生まれた場所とか、そんなことで差別されるのはすごく嫌な気持ちになるし、それで結婚をやめるのは、お互いが幸せになれない。」また、「人柄や性格と全く関係のないことにこだわって、差別をすることで、大切な人との関係が切り離されていくことで幸せになれない。」と思いました。



私が考えたことがもう一つあります。「両親に結婚を反対されたとき、私は誰に相談するだろう」ということです。私の両親は、私の結婚に反対するはずがないと思い込んでいました。でも、「もし、結婚を反対されたら…」と考えると不安になりました。「私は誰に相談できるだろう。」そう思った時、私の頭に浮かんだのは、人権学習の時に、一緒に考え、同じ思いを抱いた友達の姿でした。「そうだ、友達に相談すればいいんだ」と思うと、不安な気持ちは、晴れていきました。私の友達は、

私のことを大切にしてくれる素晴らしい友達です。この信頼できる友達が相談を聞いてくれるという安心感が膨らんできました。学習の中で、この気持ちを探し出すことができ、私にとって素晴らしい時間となりました。

しかし、周りの人に反対された結婚は本当に幸せと言えるのでしょうか。私は、自分の両親や周りの人、全てに結婚を祝福して欲しいと思っています。私は、思い切って両親にこのことを話してみました。母は、「人は外見ではまったく変わらない。体の中も同じ赤い血が流れている。将来結婚相手を連れてきたら、生まれた場所ではなく、本人がちゃんとあなたを幸せにしてくれるのか?ちゃんと守ってくれるのか?そういうことの方が大事だから、あなたに幸せになって欲しいという気持ちを優先させてしまう。」と言っていました。母の話聞いて、父や母が私の幸せを一番に願っていることや、私の相談相手として正しく物事を判断してくれることなどが分かり、このことで家族の絆が深まりました。

偏見で人を判断したり、人を侮辱し自分より下に見たりして結婚を反対する人たちに対して、今の私は、間違いを正していけるか悩んでいます。今回の学習で、正しく判断できる知識や表現力を身につけていこうという思いを強くしました。

今の私には、相手を説得するだけの知識も力も十分ではありませんが、間違った考え方に対する怒りだけは誰にも負けません。だからこそ、これからも学習を積み重ねて、そして、自分と同じ中学生が人権についてどのような思いをもっているのかを聞き、間違いを正していこうと思っています。今、自分になんか力をつけるためにたくさんの人と人権について話し、また話を聞いていこうと決意を新たにしています。そして、人権を尊重していくために、まず身近な差別や偏見からなくしていきます。そのことが、みんなが幸せに生きていける社会への一歩につながると信じて

いるからです。みなさん、力を合わせて一緒に差別をなくしていきましょう。そして、誰もが幸せに生き笑顔で過ごせる社会になるよう努力していきましょう。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半3本目の意見発表です。板野中学校2年次本穂乃さん「平和への第一歩」です。よろしくお願ひします。

「平和への第一歩」

板野中学校2年 次本穂乃

命について、真剣に考えたことがありますか。この世には命を奪うものがたくさんあります。事故、病気、自殺など数え切れないほどたくさんあります。その中で一番残酷なのは戦争だと、私は思います。しかし、私は戦争を体験したことがなく、戦争の知識がほとんどありませんでした。そんな時、修学旅行で平和学習ができると思い、とてもうれしく思い、同時に、とても緊張しました。

まず、私は当時10歳で戦争を体験した玉木先生のお話を聞きました。玉木先生のおじいさんは戦争でけがをして、自殺したそうです。

私も一度、本当に自殺しようとして、手首をカミソリで切ろうとしました。カミソリの切れが悪く血管までは切れませんでした。自殺は本当につらくて、死にたいと思っても苦しいです。だから、玉木さんのおじいさんはつらかったと思います。また、敵に追いつめられて集団で自殺したことも聞きました。戦争は人を自ら死に追いやることをするんだと知りました。

また、私は戦争で実際に使われた「ガマ」と呼ばれる自然にできた洞窟を見学しました。当時のままの靴や、ドラム缶、ガレキの破片など、戦争の痕が生々しく残っていました。その時、ガイドさんが、「ここは捨てら

れた命があった場所です」と教えてくださいました。私は耳を疑いました。そこは、もう戦えないとされた兵士が死を待つ場所だそうです。そこは懐中電灯を消すと真っ暗で何も見えません。そんな中で、苦しみながら「お母さーん」「苦しいよ」。という声が聞こえそうです。とても苦しかったです。捨てられた命なんてあってはいけないと思います。しかし、戦争を起こした代表者は、沖縄の人々を「捨ててもいい命」として考えていたのではないのでしょうか。



今、日本は憲法改正で海外で戦争ができる国になっていってしまいそうです。今度は日本が他国の方々や自衛隊の人々の命を「捨ててもいい命」にしてしまいそうです。また、今、この時も戦争で一人、一人、また一人亡くなっています。

あなたがもし、いつ死んでもおかしくない戦争に巻き込まれたなら、どうなるでしょう。学校にも行けない。ご飯も満足に食べられない。安心して寝られない。そこで私は気づきました。戦争は最大の人権侵害だと。

日本、そして世界に戦争がなくなるためには、まず学ばなければなりません。そして学んだことを伝えれば、きっと戦争はなくなると思います。

いつの日か、この世に戦争がなくなり、世界が幸せになり、私が幸せに死んだあと、天国にいる戦争で亡くなった方々に、「戦争はなくなったよ。もう平和だよ」と言えるような世界にしたいです。この作文も、その一歩

だと思えます。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、前半4本目の意見発表です。よろしくお願ひします。

「思いを伝えるために」

大麻中学校

私が、今、一番考えていきたい問題は、部落差別についてです。小学校のときは、地域のフィールドワークをしてたくさんのことを学びました。当時の人たちが厳しい部落差別によって、うばわれた生活を取り戻したいという願ひによって、建てられた施設や橋があることを知りました。また、部落差別によって、文字をうばわれ、識字学級で学ぶおじいちゃん、おばあちゃんから、辛い思いやくやしい思いをしてきたことを聞きました。



でも、私は、その話を聞いても身近なこととしてとらえることができませんでした。それは、遠い過去のように感じていたからです。

そんな私の考え方が変わったのは、去年行われた「中高生人権交流集会」に参加したときからです。班で話し合ったとき、一人の女の子が自分の家族について語ってくれました。

「私のお母さんは、どこが差別されている地域なのかを気にしていて、出かけたときなどに『ここはだめよ。部落地区なんだから。』と言います。」と、発表しました。そのとき、私はとてもショックをうけました。重い何かの頭にのしかかったような感覚におそわれま

した。今まで部落差別が身近にないと思っていただけに、本当に切なくなりました。きっと、差別を受けてきた人たちは、この何倍も辛く苦しい思いをしてきたに違いないと気づきました。

私は、そのお母さんに伝えたいです。生まれた場所や育った場所で人を判断したり、その人自身ではどうにもできないことで差別したりすることは、間違っているということ。また、今も、識字学級へ通ひ、差別をなくそうと闘っている人たちの熱い思いを知ってほしいです。そして、真実を知って、間違った見方や考え方にはやく気づいてほしいです。

私たちのまわりには、彼女のお母さんのように、偏見をもち、間違った考えにしばられている人がいるはず。彼女も自分のお母さんの間違いをどうにかしたいと思って打ち明けてくれたのだと思ひます。

私は、この体験をきっかけに、もっと自分の思いをことばにして伝えていこうと決めました。なぜなら、私は、そのとき、彼女に何も伝えることができなかったからです。これからは、交流集会などに積極的に参加し、たくさんの人々の考えや思いを知ることによって人権について深く考え、差別する人、される人、すべての人の力になれる人になりたいです。また、学んだことをまわりの人にも伝えていきたいです。



司会者 ありがとうございます。どうぞ元の

席に戻ってください。

それではこれから、意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、参会者のみなさんの思いを語っていただければと思います。また、マイク係として、大麻中学校3年のn、板野中学校2年のp、藍住中学校3年のuの3人がフロアをまわります。なお記録の関係上、発表者は学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

板野中学校 1年 l ボクは次本毬乃さんの作文を聞いて、やっぱり一番残酷なのは戦争で、戦争っていうのは命をどうでもいいように思っています。命っていうのは両親からもらった大切なものなのにそれを捨ててもいい命というのはおかしいと思うし、そういう戦争とは違うんですけど、イジメとかも残酷で自殺という苦しいことまで追い込むので、やっぱりそういうのを見かけたら注意していきたいと思いました。

高浜中学校 3年 v 私は、松村麻里さんの作文を聞いて、私も自分の名前の由来がなくて、お母さんに聞いたらただ、「呼びやすいから」と言われて、自分の名前が嫌いだった時もありました。自分の名前はお母さんやお父さんが決めてくれた名前やから誇りをもって大事にしていきたいと思いました。



内浦中学校 2年 w ボクは最近、部落差別

についてたくさんビデオを見て学んできたんですが、ボクたちがこういう会を開いて部落差別はいけないもんだと言っているけど、大人の考えが変わらない限りは部落差別は広まっていくと思います。ボクたちがいけないとか言ってるのでたぶん減っていくとは思いますが、大人の考えがやっぱり変わらない限り部落差別は消えないもんだと思っていますので、ボクは個人的には大人の人権集会もちゃんと開いてみた方がいいんじゃないかと思います。

上板中学校 2年 k 松村麻里さんの作文を聞いて、名前ってそこまで大事なのかと思いました。名前というのは自分の代わりになるものだと思いますが、人が自分を呼ぶとき、物に自分の名前を書いて自分の物だと示すときに使っています。本当に大事だと思うことは、名前をつけた後、家族の自分に対する態度が一番大事だと思います。名前があまり好きじゃなくても、意味がなくても、家族の態度が大事なので、名前はそこまで大事とは思わないです。本当に家族が自分のことを愛している、自分に優しくしてくれるなら、私はそれが一番よいと思います。

応神中学校 3年 e 大麻中学校の方の作文で部落差別はもうないと思っていたという部分があったと思うんですけども、実は私も最近までは部落差別はほとんどないと思っていました。祖母が自分がどこの地区に住んでいるのかということを知らない友達に部落差別とかの話をしたらしいんです。私がこういう会に参加しているという話をしたとき、その友人が部落のことをいろいろ話してくれて、自分の住んでいる町のあそこには部落があって、あの辺にも部落があって、もうちょっと向こうに行ったところに部落があってという話をしたらしいですよ。その時に、今、自分の住んでいる地区、地域の周りにはどこにも

部落がないと誇らしげに語ったらしいんですよ。それで、誇らしげに語っているということは、つまりは自分は隣に住んでる町じゃなくてよかったとかって言ってたらしくて、じゃあ部落の人とは関わりたくないってことなんか、それって部落の人は自分にとって嫌な存在でしかないのかと祖母は思ったらしくて。私の祖母は部落出身の人間で、それでその話を聞いたときにちょっと怒りを覚えたそうです。祖母が部落出身じゃないと思っていたからそういう話をしたらしくて、その話を聞いた私も、一応、部落出身だからそんなふうにやっぱり思われているだなぁーって思いました。

土庄中学校 1年 x 松村さんの作文を聞いて、友達のことを思い出しました。その子も名前に由来がなくて、その子の親が昔、「仮面ライダー龍騎」からそのままって「リュウキ」っていう名前になったそうです。その子は出席番号が一番後ろで、クラスの中で一番最後に由来のことを話していて、「なんか、仮面ライダーから取りました」と言っていました。その子の漢字に「輝」っていう字があるんですけども、その子は名前に由来がなくてもその漢字の通りに輝いていると思ったので、名前の通りに生きているのでよいと思いました。



国府中学校 3年 y 次本さんの作文の最後の方に憲法改正の話があったじゃないです

か。お昼のニュースを家で見よったら、トップニュースで国会で白い大きな紙をもった人が憲法改正について発言していて、平和な国を守れみたいなことを言っていて、話はよく聞くけどどんなことか全然わからなかった。国会の仕組みも公民を習いたてで何にもわからんし、法案が可決されて、これからどうなるんかも全然わからんし。法案が通ったんやったら調べてみようと思ったけど、憲法を改正して戦争を起こさない国じゃなくなるんじゃないかと思って、調べるのも怖くて。憲法改正されてなんか自衛隊の人の命が捨ててもいい命にならないような日本であって欲しいと思いました。

板野中学校 1年 l kさんが名前はどうでもいいっていう感じで言っていたのはちょっとおかしいと思いました。名前っていうのは両親が真剣に考えて、一番最初に自分に与えてくれたプレゼントなのに、それをどうでもいいっていうのは両親にも悪いし、そんなどうでもいいと思うのだったら両親も適当な名前をつけると思いました。

中山中学校 3年 z これまでの作文の中に部落差別の話が出ているけど、部落差別の話って、よくおじいさんやおばあさん世代の人が「あそこは部落だよ」とか言うけど、その人達は直接何かされたわけではないと思うけど、昔からあることってなかなか抜けないんだと改めて思いました。この会で出た意見や正しいことをきちんと広めていきたいと思いました。

板野中学校 2年 m 毬乃ちゃんの作文を聞いて、みんなと着目点は違うと思うけど、作文の中で1回、自傷行為だったっけ？リストカット？をしたっていうのを聞きました。それを聞いて、やっぱり友達が悲しんだときに味方になれるような人になりたいなと思っ

たし、毬乃ちゃんも私らのことをたよってほしいなと思いました。



上板中学校 2年 k 名前のお話なんです、さっき、1君が言った名前が大事だと思っていることは間違いじゃないけど、よい名前をつけられたら、それは本当によいことだと思います。だって、名前の中にはお父さんお母さん、家族の思いが含まれているからだと思います。でも、松村麻里さんのように、名前に意味がないというのは、私はそこまで気にしなくてもよいと思います。本当に大事なのは、家族や両親のあなたに対する今の想いが大事だと思います。

屋島中学校 3年 aa ボクからも部落差別について少し考えたことがあったので発表したいと思います。私たちの地域では、今はすでに部落差別という言葉がなくなっていて、実際問題としてそんな目立ってはいないので、やはり過去には私たちの地域でもあったらしく、大人の中ではこのようなことを含めた会話がヒソヒソと裏で流れていることもあります。私たち、子どもがいくら学んでも大人の間でこの話が消えない限りは、部落差別は絶対無くならないと思うので、先ほどもあったように子どもたちではなく、大人たちもこういった活動を通して学んでいくことが大切なのではないかと思っています。

板野中学校 1年 l kさんが言ってること

なんですけども、名前に由来がなくても、今、愛するとかどうかじゃなくて、まず親はずっと子どもも愛すると決めて産んでいるので、育てていく中で愛さないということはないと思うし、名前の由来がなくても名前の通りに生きていけたらいいと思います。

阿波高校 1年 ab さっき男の子が言うてくれよったと思うんですけど、私たち高校生、中学生はこういうふうにも人権を語れる場があるじゃないですか。大人もそういう会に参加したりとか語る場所をつくったりした方がよいのではないかという意見を聞いて、そういう活動をしてるんですね。今、現に。今ここ



でこうして中学生中心にやってるんですけども、その大人の人もやってるんですよ。ちょっと宣伝みたいになるんであんまり言いたくないんですけども、でも、今月8月5日にあるんですよ？こういう「自己を見つめて語り、人と人がつながる人権学習」というのを。参加は自由なんですよ。誰でもですよ？先生ね？自由なんでこういうことをしているということを周りの大人の人に伝えていって欲しいという願いが自分にはあります。うずしお会館であります。うずしお会館の2階の第一会議室です。やっぱりそういう活動をしていることを何らかの形で広げていくことが、広げていったり伝えていったりしていくことが大事やと思います。

板野高校 1年 ac 上板中学校3年の三浦唯津稀さんの発表の「幸せになるために」ですけれども、幸せとは何ですかって最初書いてあるんですけど、私にとっての幸せって、今こういう所で生きていて友達に出会ったりとか、いろんな人に出会ったりとか、出会えたりすることがたぶん幸せなことじゃないのかなと。今、生きている状態がこういう苦しいことも何かもう嫌なこととかもいっぱいあったりすると思うんですけども、何かこうやって生きていることが幸せなんじゃないかなと。それとか、ここに隣に座っている方とかに支えられたりして、なんか自分が生きていけるっていうのは、本当に幸せだと思うし、家族に支えられて生きていくことが幸せだと思うから、死にたいとか思ってもちゃんと支えてくれる友達がおるから、そういう子たちに頼って自分の生き方を自分なりに見つけて行ってほしいなと思いました。



応神中学校 3年 e ものすごく話が変わるんですけども、私の両親の出会いが人権活動の場だったらしんですよ。通っていた中学校とか高校とか全然違うんですけども、それでもこの会みたいなのに参加していたらしくて、出会ったらしいんですけど、その話は私が聞くまで全く知らなかったんですよ。人権や、部落差別をなくす活動をしてたっていうのもあって、私がこういう人権の会に出るのはとがめられたりとかはしないんですけども。でも、今の2人を見てるとなんか、昔、

人権の活動をしてたっていうのが全く分からないような、そんな感じがちょっとあって、本当にこの人たちって人権の活動にまじめに取り組んでいたのかな、本当にちゃんとやってたのかなって思うことがあって。それでさっき何人かが言ってたように、やっぱり大人でも人権のことについてちょっとでも語り合えるような場所があったらいいなと思いました。

上板中学校 2年 k 「幸せになるために」という作文について、私は今中2なので、結婚とかはめっちゃ遠い話で、だから私は、幸せっていうのは、単純なものだと思います。すぐ、自分の側にあります。何か自分の好きなことをやったり、楽しいことをやったり、例えば私はこうやって発言することもめっちゃうれしくて、幸せだと思います。だから、深い幸せもあると思うけど、単純な幸せ、簡単な幸せの方がもっと現実的で実在的だと思います。

板野中学校 1年 l ボクも「幸せになるために」の作文で、生きていることがまず幸せで、友達に会えることも幸せだし、こうやって、人権を語り合う中学生集会に来れることも幸せだし、勉強も幸せだし、遊ぶことも幸せだし何もかもが幸せなんですよ。簡単な幸せとか、難しい幸せとか、努力したら幸せは絶対くるということが分かりました。

板野中学校 3年 ad 唯津稀さんの作文を聞いていて、「幸せとは何ですか？」とありますが、私が思う幸せっていうのは、普通に何かもう、隣に誰かが居たりとか、家族と一緒に話していたりとかいうときだと私は思うんですよ。その後に結婚の話とかありますが、部落がどうのこうのとか、例えば外国人と結婚するという話になって、何か通じないことがあると言われて反対されても、こ

れは、ただ単に自分が選んでいるから、親に何を言われても私だったらその反対を押し切って結婚すると思うんですよね。だから、よう分からんけど、自分の求めている幸せをつくってくれる人、または、それを持っている人と結婚すればいいと私は思います。



大麻中学校 3年 n 幸せになるためにという三浦さんの作文の最後の方に「間違っただけの考え方に対する怒りだけは誰にも負けません」というのがありました。怒りだけというと単なる暴力になってしまうんじゃないかなと思いました。

板野中学校 2年 m ずっとカメラ係をして作文を聞いていたんだけど、内容もちっと理解不足なんです。幸せとは何ですかという問いかけで、私が思う幸せっていうのは、他の人が言よんとほとんど同じなんですけども、こうやってここにおることがすごい好きなんです。こうやってマイクを取ってしゃべっていることが実はすごい好きで、この活動をしようときも幸せで、それで板野中学校に人権部ってあるんですけども、その場に居る人も私は幸せで、それで人権活動をもっとしたいと中友（中学生友の会）におるときもすごい幸せで、友達と居るときもすごい幸せで、たぶん私は幸せ者だと思います。

板野中学校 1年 c 三浦さんの「幸せとは何ですか？」でボクが思うことで、ボクは嫌

って思うことは幸せじゃないし、自分が好きて思うことは幸せだと思うんです。だから、生きているだけで嫌いなことがあったらボクは幸せじゃないと思います。



藍住中学校 3年 u さっき板野中学校のc君が言ってくれたんやけど、嫌いなことがあったら幸せじゃない？やな。うちはちょっと似ているようなことなんやけど、確かに好きなものがあるってことも、それはそれで幸せなことやけど、嫌いなものを嫌って思える人も幸せなんじゃないかなと思うんよな。なんか嫌いなものを嫌って言えん状況だつてあるじゃん。身近に例えにくいかもしれんけど嫌いなものを嫌って言えん状況がある人やっておるんよな。それを考えたらなんか、それだったら嫌いなものを嫌って言える人も幸せなことなんじゃないかなって、さっき聞いて思いました。

上板中学校 2年 k 幸せの話ですが、私が話した後のl君の話で、生きるだけでも幸せだろうというのにちょっと疑問があります。例えばある子が学校やどっかでイジメられたとかいう話があったら、自分が生きていることを幸せだと思いますか？私は、そうは思いません。生きてることが絶対幸せとは言い切れないと思います。

藍住中学校 3年 q さっきkさんが言ってくれたように、ボクも言おうとしたんですけ

ども、普通に生きれるだけでボクも幸せだと思います。例えば、交通事故で亡くなってしまふ方だっておるし、出産時に頭から出ずら足から逆に出て詰まって死んでしまったり、ちょっとしたアクシデントで死んでしまったりとかそういう方もいるので、何事もないように、こうみんなが集まって生きることが幸せだとボクは思いました。

土庄中学校 1年 x 三浦さんの作文で、一番最初に幸せってなんですかと聞かれているけど、それで生きてることが幸せっていう人もいれば、好きなことがあるとか嫌いなことがあることが幸せという人がいるし、今、やっていることが幸せっていう人がいるけど、私は何か幸せって決めることがなくて、なんて言うんですか、そう絞ることじゃなくて、幸せって自分が感じたら幸せだと思うので、何か幸せでこれは幸せではないということを決めることはないと思いました。

上板中学校 2年 k 今、さっきのq君の話ですが、私は人によると思います。あなたはそう思うかもしれませんが、本当に生きることだけでも苦しいと思う人もいるし、そんな人はめっちゃ少ないと思います。

板野中学校 1年 l kさんの話で、ある子がイジメられていたらというのがありましたが、講演会でもあったように、他の子がちょっと声をかけるだけでも、その子はうれしいと思います。うれしいっていうことは幸せになれるということなので、イジメられていても近寄ったり、「いける？」っていう感じで声かけをしたりすれば幸せになれると思うので、イジメられている子に声かけできたら、かけられただけでも幸せになれると思います。

屋島中学校 3年 a e 部落差別についてな

んですけども、ボクが住んでいる香川県には、あまり部落差別が身近になくて、あんまり部落差別という言葉を受かないんです。部落差別というものを最近知って、そのときに部落差別が今もあることを知って、これから部落差別をどんどん無くして行って、そういうつらい思いをする人がいなくなることが一番いいことだと思いました。

上板中学校 2年 k さっきのl君の話に対して、イジメだけではなく、他にも戦争をやっている所があって、戦争で監禁された人もいるかもしれないから、声をかけただけで幸せになるとは言い切れないと思います。



板野中学校 1年 l 幸せっていうのは、戦争はなくならんっていうんではないけど、戦争で命を亡くした人は、自分で亡くそうとして亡くしたんではないし、自分から戦争に行くって言ったんでもないから、幸せっていうのは人がどうこう言う前に、自分でこれは幸せって思ったことは何でも幸せだと思います。

屋島中学校 3年 a a 先ほどからちょっと2人で議論が続いているんで割り込ませてもらいます。幸せの基準なんですけども、とりあえず幸せを感じることができるのは生きているからであって、その最低条件がないと幸せすらも感じる事ができないので、やはり、その生きていることを最低基準としてそこか

ら幸せというものを考えていけばいいのではないかと思います。

板野中学校 3年 a d さっきから議論していますが、戦争とかイジメとかだけじゃなくて、私が思うに、例えば病気とかなんかで昏睡状態とか植物状態におちいつている人でも、もう死にたいのに死ねない。また、生きたいのに生きることができない。そういう人のことも頭に入れといて欲しいなと私は少し思います。



応神中学校 3年 e k ちゃんとか1君とかずっと幸せのことについて言ってるん聞いて、幸せってなんだろうなって。今年のこの大会でも、一応、話に上がっていたと思うんですけども、幸せってなんだろうなと考えて、パッと答えが出るもんじゃないと思うんですよ。でも、幸せって、今この場に来れるという自由があるというのが幸せであると思うんですよ。幸せじゃないというのは何かを制限されるとか、何も考えてはいけないとかそういうふうに制限をかけられる。例えば戦争中だったらこういうことを発してはいけない、こういう考えをしてはいけないとか、この人と会ってはいけないとか、そういうのあるじゃないですか。だから、こういうことを言って正しいのかどうか、わからないんですけども、この場における人は、みんな多分、幸せな人間だと思います。

国府中学校 3年 y 家のお父さんには何も困ったことなく、普通に暮らせて、めっちゃ幸せなんですけども、そのことをずっとお父さんに言われ続けていたら、刷り込みかもしれんのやけど、私もそれが幸せの基準になってきて、ほれでこの会に3年間来れとんもめっちゃ幸せです。それで国府の下の学年の人も、都合が今回合わなかった人もほうなんですけども、国府の人とかがいっぱいこの会に参加したら私ももっと幸せやなと思いました。

東郷中学校 3年 a f 差別についてなんですけども、ボクは差別はなくしたいと思っているけど、まず、今、差別と闘っている人たちの気持ち、思いを知ることが大切だと思います。

内浦中学校 2年 w みなさん、幸せについて話していましたが、ボクにとっての幸せというのは、こうしてみんなと集まってその自分の悩みとか人に言えないことをさらけ出したりとか発言できたりすることが本当の幸せじゃないかなと思います。

高浜中学校 3年 o 名前の由来についてなんですけども、その由来がなくても、自分の名前の通りに過ごしているのはすごいと思います。私の名前も両親が人を照らすようになってほしいと思ってつけてくれたので大事にしたいと思いました。

大山中学校 1年 a g 今、幸せについていろんな意見が出たと思いますが、幸せってその人の価値観によって大きく左右されると思います。ちなみに、今、幸せっていう出た意見を全否定するわけではありません。

屋島中学校 3年 a h さっきの名前の由来で、親が決めた名前の由来の通り生きる必要

なんて全然ないんですよ。無理して名前の通り生きるんじゃなくて、自分のやりたいようにやればいいと思うんですよ。自分の親と自分は考えることとかも全然違うので、自分の名前に縛られるんじゃなくて自分のやりたいように生きればいいのかないかなと思いました。

一般 az 今日には全く教師として引率という形でもありませんし、昨年この報告集を読ませて頂きまして、どのようなものなのかということで興味をもって見に来たというのが正直なところでした。なので、中学生がこのような形で意見を活発に交換し合っている姿というものの自体が、こうやって100人以上の生徒が集まっているということ自体が、そしてまた、司会に実行委員長さん、マイクにカメラにもう表彰まですべて中学生が行っているということが本当にもう驚きを隠せません。

私が今、意見することで、中学生の意見を言う時間を奪ってしまうのではないかと考えて、今まで躊躇していましたが、オブザーバーというか、そんな形でのぞき見させて頂いたので、自由に意見を言わせて頂こうと思いました。

ここで「幸せになるために」という三浦さんの作文がありまして、この中で「周りの人に反対された結婚は、本当に幸せと言えるのでしょうか」という一節がありまして、これがすごく私自身の経験から引っかかりました。自分の体験を通して、みなさんに何か教えるとかではなく、みなさんが中学生としてまだまだ経験していないことで気づいていないこともあるでしょうし、こういった人もいるということ、私がこうやって来たということも何かのみなさんとの出会いであり、縁だと思えますので、こういった人間がいるということを知って頂けたらいいかなと思いました。

私自身は40代前半になりまして、中学校の2年生のときに部落問題と初めて出合いました。その時の出会いというのは、私の友達が部落差別はしてはいけないということ、ある雑誌に作文で投稿して載ったことでした。彼女はすごくいい作文を書いたと私も思っていたんですが、私の通っていた中学校のすぐ側に歩道橋がありまして、その歩道橋は、誰もが中学校に行くときに通るところで、その歩道橋に大きく友達の名前がデカデカとスプレーで、フルネームで書いてあって、「〇〇はエタヤ」というふうに大きく書いてあったんです。それが初め私は意味がわからなくて、でも、それにひやっとしたっていうのもあり、「誰がやったんやろ」「こんなことするなんてなんなんやろ」ということで、すぐ先生に言いました。それはすぐに消されたんですが、その後、部落問題学習ということで中学校で部落差別について聞きました。その時に決していい話ではなく、家の恥ずかしい話でもあるんですけども、母にその話をしたとき、「怖いんや」とまず家で言われました。

「部落っていう所は怖いから近づいたらあかんで」というふうに中学2年のときに、私は言われました。全然私は、どういう場所なのかも分からないし、その部落と呼ばれる地域がどこにあるのかも分からない。でも、「実際に人とその人と会って話をしてみないとその人がどういう人なのか部落っていうものがどういう所なのか、全くわからんのではないかと母に言ったんですが、母は「あんたは経験がないから世の中のことを知らんから、そういうことを言うんや。集団でやってきて、みんなで罵って、怖いんや。何されるかわかれへん」と言って大喧嘩になったことがあります。そういったことをふまえて、その時から、自分は必ず部落と呼ばれるその地域に住んでいる人と直接出会って、部落という場所がどういうものか、本当に怖いのか、そういったことを絶対に自分で判断しようと思いました。

た。

それから高校、大学と進んで教師になったわけなんですけれども、その話は飛び、私は結婚しましたが、今部落の話をずっとしてきたんですけども、これも個人的な話ですが、私の夫は在日韓国人三世です。夫のおじいちゃん、おばあちゃんが韓国の済州島という所にいまして、そこから日本に来ました。その後、うちの夫の両親は日本で生まれ育ち、うちの夫もその兄弟もみんな日本で生まれ育っているのです、日本語はもちろんペラペラですし、普通に日本での教育を受けていますが韓国籍です。私は日本国籍で、国籍が違うもの同士で名前もいろいろ悩んだ結果、夫婦別姓という形で、韓国が夫婦別姓の国なので、そういった形でお互いそれでいこうということになったんですが、先ほどの三浦さんの作文で、両親とか周りの人に祝福されない結婚ということが引かかかっていました。



私は、部落差別ということに関して、結婚差別というのは受けた訳ではないんですが、母親に韓国籍の人で在日三世の人でと言ったときに、まず、母親は立ち上がれなかったです。「なんて言った？韓国って言うた？」と言われました。そしてそれは、親が認められない結婚なので、もうそれだったら絶縁すると言われました。母親があまりにも反対するので父親は私の目の前で「もうそんなに反対して嫌なんだったら、娘は死んだと思っただい」と目の前で言われました。さっきから幸せとか不幸とかでいろんな心の持ち方だと

かいろんなことをみなさんおっしゃっているんですけども、私にとって、そうやって両親に言われたことは、決して幸せなことでもなんでもないんです。祝福されなかった結婚というのは、決して幸せではないのかもしれない、不幸な出来事が本当に重なったことだと思っています。

私は今、大阪でも在日韓国朝鮮人の人たちがたくさん住む地域に住んでいますが、そのことを私自身は何とも思っていないんですけども、そのことで「あんな地域に住むんか」とまた言われました。その時、親に笑われました。もちろん2人で結婚式を挙げましたが、両親は祝福なんてするはずもなく、そして父親は、そのまま亡くなりました。母親とは疎遠で、今でも実家に足を踏み入れることができません。父親のお葬式の際にも母親は一切連れてくるなと言いました。本当に不幸な出来事だと思います。生きていてだけで幸せだとか、そんなふうには全く思えません。ですが、私にとって夫と結婚したことは本当に幸せなことだと思っています。自分自身が誰が反対しようが、自分自身が幸せになる。そのことが一番大事なのではないかな。そして夫はそんな私のいろんな背景を知り、私は夫のいろんな背景を知りながら、受け入れながら、お互いに変わりなく日々ご飯を食べ、日々話をしたり、時には相談したり、心と心を支えあったりしながら生きている。そのパートナーを得たことが、私にとっては何よりの幸せだと今でも思っています。なので、そういう人もいるということ、話は長くなっただけですが、これから、もしかしたらみなさんも、いろんな方に会われるかもしれません。

また、最近ヘイトスピーチということで私の家の近所でも「朝鮮人は韓国に帰れ」というような街宣車が回ったりもしています。そういった中で闘っている人たちもたくさんいます。部落問題でいろんな志をもった大人同士がつながっていて、私自身が今日、吉成さ

んとか森本さんとか森口先生とかいろんな先生とつながっているのも、私自身が日本全国いろんな志のある人と心と心でつながっていきこうと思ったからです。いろんな所に全国行脚しながら、もう30年が経ちました。そのような形で大人が何もしていないということではないと思います。いろんな志のある人が志のある人とつながりながら、正にこのタイトルの通り人と人、心と心がつながって、そして輪が広がっている、そういう大人の世界があるということも知って頂けたらと思います。



板野中学校 2年 m さっき大阪から来られた方の話を聞いて、何ていうか、親から死んだふうに思えばいいと言われたということを知って、信じられないなと思いました。親から言われるっていうのはものすごく辛いんですか？ですよね！ほんなこと言う親がおるんかと思って、そう思ったらまだまだ日本ってそういう考え方の人がおって…、すいません。…言われた方、本人が辛いというのはよくわかるんですけども、でもそういうなくなっていないという現状で…、ほなって…国で人のことを差別するっておかしいと思うし、その人のことをよく知らなくせに言うっておかしいと思うんですよ。ほなけん、私は反対されても、こうやって結婚されてよかったんじゃないかなと思います。それで今、幸せなんだったらそれでいいかな。それなので幸せになってください。幸せのままでいてく

ださい！

上板中学校 2年 k 大阪から来た方の話ですけど、経験者の前でこんな話をするのはどうかと思いますが、私は、本当にこんなことがあっても幸せだと思います。そこまでするほど相手を愛しているから、だから最後親に反対されてこんなことになっても、大好きな人とこんな形で一緒に居てもめちゃくちゃ幸せだと思います。親の方は残念ですけど、幸せだと思います。



応神中学校 3年 e 先ほどはa zさんの話を聞いて、親に在日韓国人と結婚するっていう話を反対されて、娘は死んだと思えばいいと言われたという言葉を知って、韓国人と結婚するぐらいだったら娘なんておらんほうがいい、おらんと思ったほうがいいという考え方は、なんか変だと思うし、やっぱなんか、違うかなと思いました。a zさんの発表？かな、手を挙げて下さってもものすごくうれしかったです。一応ここは、中学生集会、中学生が本音を語り合える集会みたいになっていますが、私の個人的な意見なんですけども、この場では中学生だけでなく、高校生の人、大学生の人または先生方やここに来て下さっている大人の方にもたくさん発表してほしいんですよ。中学生の意見も大事だとは思いますが、それでも大人の方の話って学校の先生以外、違う学校の先生の話だとあまり学校内で聞けることってないじゃないですか。だから、

この場を通して、この場にいるたくさんの人に発表して欲しいし、いろんな意見を聞きたいし、もう大人とか子どもとか関係なく、ここに集まっている人って大抵人権のことを考えてきてる訳じゃないですか。だから、思ったことをそのまま発表してもらいたいと思いました。

板野中学校 1年 I ボクも大阪から来てくれた先生の話聞いて、まず、親が結婚を反対するっていうのは、ちょっとおかしいかなと思いました。それは、自分が愛しとう人を何で、どんな生活をしようとか何も知らんのにわざわざ外見とか違う国だからといって、結婚を反対するっていうのはおかしいと思うし、親がなんかすべて決めるのもおかしいと思う。反対されても結婚したのはやっぱりすごいと思ったし、お父さんもお父さんで、死んだと思ったらいいって、そういう言葉を使ったらまずいけないうし、しかも、結婚して幸せに暮らしようときに親は何で死んでうって思わなあかんのという感じになるけん。まず反対するんはおかしいと思います。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで午後の部Ⅰの話し合いを終了し、10分間の休憩をとりたいと思います。10分後には、元の席に戻ってきてください。

藍住中学校 教員 ちょっと残念な発表なんですけど、午後の部Ⅰをもって、福井県からの高浜中学校、内浦中学校のみなさんが帰ることになります。午前中から人権について考えてきた仲間が帰るのは寂しいですが、時間の都合もあるので仕方ないことです。また、中学生集会は続いていきますので、来年も是非高浜中、内浦中のみなさんも参加してもらえんことを切に願っています。それで、高浜中のみなさんと内浦中のみなさんちょっと立ってもらえますか？それでは、この2校のみな

さんは帰っていきます。残っているみなさんで盛大な拍手で送り出したいと思います。それでは拍手して下さい。(拍手)それではまた来年もお待ちしております。気をつけてお帰りください。さようなら！

